

いしかれん だより

第20号
1998. 2

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-0064 金沢市南新保町3番1
石川県精神保健福祉センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

家族会とともに

金沢市保健所

所長 櫻井 登



新しい年を迎え、家族会の皆様には、如何お過ごしのことでしょうか。

昨年、は、変革の時代を実感させる、様々な出来事が起こりました。金沢市でも、4月

に組織改編を行い、新たに泉野、元町、駅西の各福祉保健センターを設置し、三つの保健所を金沢市保健所の1ヶ所としました。市民に身近な福祉と保健のサービスを、福祉と保健が連携して、市民の皆様、に、できるだけ利用し易い形で提供していきたい、そのようなことを目的にして行なわれました。もっとも、家族会活動への支援やグループワーク教室などにつきましては、〇〇保健所から〇〇福祉保健センターへと呼称が変わっただけであり、従来と殆ど変わったところはありません。

しかし、近く導入される介護保険制度など福祉と保健が大きく変わろうとする時代にあっては、福祉保健センターを、地域における福祉と保健の拠点として、これからますます充実させていかなければなりません。組織の改編は、その一歩に過ぎず、私達職員は、一層の努力と新しい発想が求められているものと思っています。

また、今年の秋頃を目途に、金沢市の障害者計画の策定が進められています。精神障害者の保健福祉を深く理解し、また関係してこられた、家族会を始めとする方々のお知恵をお借り

しながら、策定していますので、具体的で誤りのない計画が策定され、これからの精神障害者保健福祉が一層推進されていくものと確信をしています。同時に、これは、平成5年に改正された障害者基本法が、目に見える形を取って、その姿の一つを現してきたものだとも感じているところであります。

厚生省の方では、昨年12月、障害者関係3審議会の合同部会が、障害者福祉施策の今後の在り方について中間報告を行っています。この中で、精神障害者社会復帰施設は他の障害に比べて遅れているとの指摘があると述べ、その原因の一つとして、差別と偏見をあげています。

歩道の段差をなくす、スロープを取り付ける等々の無障壁化（バリアフリー化）が進んでいます。これらの物理的な無障壁化がますます進んでも、先の中間報告が基本的理念の一つとして掲げる「障害者の自立と社会経済活動への参画の支援」を実現していくには、心の無障壁化（心のバリアフリー化）が必要だということをよく耳にします。特に精神障害者保健福祉にあっては、この心の無障壁化を如何に推進するか。難しい課題ですが、今年も努力してみようと思います。

「何を分かりきった、当り前のことばかり言っているんだ。」とお叱りを受けそうなことばかりをお話ししてしまいました。

変革の時代です。変革を恐れず、今年も家族会の皆様と共に歩んでいきたいと思っています。そして、より良い変革が少しでも多くなるよう頑張っていきたいと思います。

平成9年度 北信越ブロック研修会に参加して

平成9年9月18日から3日間にわたって富山県富山市呉羽町で北信越ブロック研修会が開かれました。

講演・シンポジウムと、参加者約640名が共通の問題に真剣に取り込んだ大会でした。

分科会「家族会活動を活発にするには」に参加して

のぞみ会 宮 野 三 郎

家族会会員より、「精神障害者を抱えて家族だけではみていけない」との切実な思いが語られ、一層地域社会全体でみていく必要性を感じた。そのためには今後家族会はどのような活動をしていけばよいのか、大きな課題である。

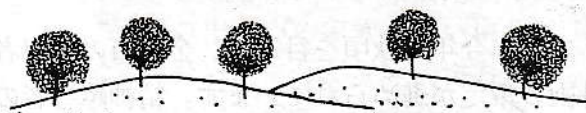
現在、各市町村で「障害者福祉計画」が策定されつつあり、家族会もその策定にかかわっている。是非精神障害者を持つ家族の立場から意見を反映していきたいと強く思った。新潟県では市町村保健婦とのつながりを重視したきめ細かな活動を展開し、いろいろな施設やサービスが充実してきたとの報告があったので、私もその策定にかかわる者として積極的な活動をしていかなければならないと思っている。

家族会では会員の高齢化や若い世代の新規会員の減少など共通の問題も多いが、石川県内のある家族会では、年度当初に活動の目標を掲げ学習会中心の活動を行い、その一部を公開講座にしてできるだけ地域の人々が参加できるように継続的に働きかけていると言う。このように

家族会だけの活動にはとどまらず、広く地域住民の理解が得られるような配慮は家族会活動の理解のためにも、精神障害者への偏見の軽減にもつながると思われ大変参考になった。また本人、家族がまだ家族会の活動を知らない場合が多いので、ポスターやチラシを作ってPRに取り組む必要を感じた。



精神障害者が生活しやすくなるためにはどうしたらよいか。まず、家族会会員同士が手を携え行政や地域の人々に働きかけ地道な活動を続けていくことが重要だと思います。



北信越ブロック家族会 研修会に参加して

心明会 八十島 信 子

今、羽咋では遅ればせ乍ら私達家族会と保健婦さんと力を合わせて作業所作りに取り組んでいます。これまでに作業所を作られた方々からは「メンバー達の眼が輝いてきた。顔色も生き生きとして意欲が湧いてきた」との良いお話をお聞きます。それで分科会では迷わずに「社会への自立・参加をより確実にするには」を選びました。

その中で長野県の作業所「つくしの家」のお話に心が引かれ又参考になりました。長野県の北端、木島平村は山に囲まれ冬は雪が数メートルも積もる小さな村。人口は6千人。その寒村で共同作業所が誕生したのは昭和59年の秋で長野県でも2番目に古い作業所と知り驚きました。この様な寒村で何故？と思ったのです。滝沢様の熱意ある前向きの語り口につい引き込まれていきます。



「初めは何か目的を持って通う場所があればよい。」「つくしという名前が付いた以上何かしなければならない。すれば収入が得られる。」「作業時間や通所の日数は人によって異なるが工賃は平等に与える。」「職員は作業内

容を色々研究する。納期限に合わせる努力をする。」「作業を一生懸命にし、うまく出来ても必ずしも就労に結びつかないことが判った。」

「作業所でも生活訓練が必要。メンバー達が望んでいるのは安心して来られる居場所。」「仕事探しに職安へ行くけど適当なところがない。それでもいいか、と気楽に考える。」「作業所で仲間に出れば安心できる。それでいいじゃないか!」「作業所に来れば色々学べる。そのためには、家族の協力が是非とも必要である。」等々。



そして、「ボランティアの方が作業所の手伝いをしたり、お茶を飲みながら色々な話をしてくれるのでメンバー達が楽しみにしている。また口コミで作業所は楽しいと伝わっていく。ボランティアの方達を大切にしているうちに、自然にボランティアの会が育ってきて助かっている。」と結ばれました。

これからも皆さんのお力をお借りしながら「まあいいか」と気長に行きたいと思います。



精神障害者家族会と病院長との懇談会

精神障害者家族会と病院長との懇談会が平成9年11月5日、石川県精神保健福祉センターで開催されました。

金沢大学医学部講師 川崎康弘先生の「脳からこころの病をみる」という講話をきき、そのあと、午前中3つの分科会で話し合った内容について病院長から、助言、ご意見をおききました。

第1分科会

「病気・療養に関すること」

輪水会 池田重男

この分科会では23人が参加し、以下の意見・提言をまとめました。

1. 早期発見、早期治療について

- ・発病したのは、就職したりした10代後半であるが、よく話を聞いたり、ふりかえってみると、小学5～6年の頃から徴候があった。
- ・「一過性のものでしょう」といわれたが、それ以上の説明がなかった。家族の納得できる説明を先生方にしてほしい。
- ・病気を早く見つけても、本人や家族のプライドがあって外部に漏れないように隠し続けるのが現状だった。だが、閉塞的にならず速やかに専門家と相談して病院の門を叩き治療すべきである。
- ・家族も親身になって本人の荷物を担ぐ気持ちになることが近道。
- ・なぜ再入院するたびに状態が悪くなるのか。

2. 全国の治療の連絡網がほしい。

- ・旅行先などで治療してもらえる全国的なつながりがほしい。

3. 精神科ショートステイはないか。

4. 精神科の薬を長期に服用することで、どのような問題があるか。

- ・主治医を信じて服用を続けているが、飲んだり飲まなかったりは良くない。家族との信頼関係が大事。
- ・内臓や歯などへの長期服用の影響が心配。
- ・奥能登で総合病院に精神科の外来が開設され、地元住民は喜んでいる。今後は病床も整備してほしい。

第2分科会

「家族会活動に関すること」

くろゆり会 木村和子

はじめに、自己紹介もかねて病院家族会、地域家族会、作業所をもっている家族会などそれぞれの立場から話がすすめられました。

家族会のレクリエーションでは「定例会は人数が少ないので、ちょっとした食事会を持つと和やかになる。」、「年に1回の一泊研修は、日頃の思いを吐き出す場で親睦を深めるきっかけになっている。月1回の例会、2カ月に1回の理事会のあとのお茶のみが、次回への活動のエネルギーになっている。」などの報告がされました。

会員数が増えない悩みの解決法として、「家族会のたよりの印刷の字を大きくしたり、読みやすくする工夫をしている。」、「地域の祭りに参加し、まわりからどんな会と尋ねられたりして、イベントを通して理解を少しずつ増やしている。」、「保健所の家族教室をきっかけに入ってくる人がいるのでPRが必要。」、「病院内に家族会がないところがあるのでぜひ作ってほしい。」などの意見が出されました。

さらに、昨年「病院に入院・通院している障害者の家族に対して積極的に地域家族会に加入の働き掛けのPRをしてほしい。」との意見が出たので家族会のチラシ（家族会入会のお誘い）を県連で作成し病院に置いてもらっているとの報告もありました。



第3分科会

「作業所・住居など

社会復帰に関すること」

鳴和の里 中 農 良 男

この分科会は約40人が参加して話し合われました。最初にくろゆり会西出会長より、昭和63年4月にくろゆり作業所（現フレンズくろゆり）を開設して、6年後の平成6年にくろゆり会として2番目のワークハウスつばさを設立し、現在は法人施設設立に向けて取り組んでいる。家族が安心して年をとれるように、メンバーが自分の目で見て、体験して喜んで参加できる施設があちこち必要ですと結ばれました。

参加者より次のような意見がありました。

1. グループホームに入れてもらったとき、家族が楽になって親子の距離がうまくとれるようになった。
2. 弟が援護寮に入所しているが、3年しか居られず次にいくところがないので安心できない。
3. 住居施設や福祉工場を民間活力を導入して、国がバックアップするという考え方で病院の応援も必要。
4. 和歌山県の「麦の郷」を視察して、家族会、社協、病院などが一丸となって地域を巻き込んでの働き掛けが行なわれていた。
5. 生活支援の施設を作るため、もっと病院が働き掛けをしてほしい。
6. 退院するとき、社会復帰にむけての励ましの言葉をかけてほしい。

第30回 全国精神障害者家族大会(大分大会)に参加して

鳴和の里 菩提寺 信 雄

今回の大会は、平成9年11月19、20日の両日に亘り、大分県別府市で開催されました。石川県内の家族会からの参加は、遠隔地でもあり、総勢13名でした。

会場は、「ビーコンプラザ」と言って、別府市が誇る西日本最大の多目的に利用できる場所でした。石家連が全国大会を引き受けなければならない時までには、この種の建築物が、県内に実現することを念じました。

本大会のメインテーマは、「精神障害者が地域で普通に生活できるノーマライゼーションの実現をめざして」で、全国各地から4,000人位が参加し、熱心に記念講演、シンポジウムに聞き入りました。

記念講演は、吉川武彦先生で「障害のある人々が地域社会の中で共に暮らせる社会」と題

して講演されました。シンポジウムは、「ノーマライゼーション7ヶ年戦略の実現をめざして」と題して、各シンポジストから発言がありました。私はこの中で、いま国が「障害者プラン」の着実な推進と施策の充実をめざすなかにあって、全国各市町村も早期に「障害者プラン」の策定に努力してほしいと思いました。

分科会は、第4分科会の「地域に開かれた作業所づくり」に参加しました。報告者からは、それぞれの地域の特性を活かした野菜果物販売や軽食喫茶店、農作業等を通して、障害者の自立と社会復帰にむけて頑張っている様子の報告がなされました。私も作業所にかかわる者の1人として、参考にすべきところが多々ありました。



受賞者紹介

石川県精神障害者家族会連合会の関係者で、今年度次の方々が表彰されました。おめでとうございます。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ・精神保健福祉事業功労者厚生大臣表彰 | 宮保 勇夫（元県連会長、泉の家役員） |
| ・石川県精神保健協会特別功労表彰 | 西出 外次（県連副会長、くろゆり会会長） |
| ・全国精神障害者家族会連合会理事長表彰 | 宮井 霽（県連副会長、心明会会長） |
| | 島崎 貞子（ちよに会副会長） |

お知らせ

「心のふれあい講演会」のご案内

みそぎ会 会長 佐 渡 若 男

今年度は暖冬とのことですが、グローバルに見れば異常気象で、天災により多数の人々が苦しんでいます。また、国内では不景気、経済の混乱、政治の流動、凶悪犯罪多発など社会不安が増大して「暖」とはうらはらに、人々の心は非常に寒いのではないかとわれてなりません。このような情勢下ではありますが、私達精神障害者の福祉拡充運動に携わる者にとっては、四囲の状況に拘らずたゆみなく着実に歩を進めなくてはなりません。本年もその決意であります。

さて、石家連恒例の行事として年1回各地で「講演会」を開催して、運動の広がりを願ってきました。今年度は、七尾・鹿島地域で下記のとおり開催することになりました。是非ご参加のほどお願いいたします。

日時 平成10年3月14日(土) 13:00~16:00

場所 七尾サンライフプラザ視聴覚室(七尾市本府中町ヲ部38番地)

内容 テーマ「地域で共に暮らす」～誰もが住みよい地域をめざして～

- ・作業所作品展示・販売
- ・講演「精神保健福祉の実践活動について」

講師 守門健康センター(新潟県) 課長 山之内 宏

- ・ミニシンポ「地域で共に暮らす」

発言者 平松 茂(公立能登第二病院長)、徳田躬誉子(ワークショップ野の花所長)、
開 睦代(株式会社ジョイン社員)

主催 石川県精神障害者家族会連合会、七尾鹿島地区精神障害者家族会(みそぎ会)

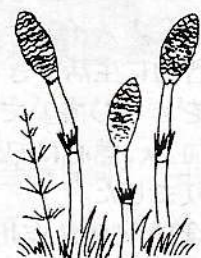
共催 七尾市



「精神障害者小規模作業所作品展」

小規模作業所通所者に目標と励みをもってもらうと共に、精神障害者への理解促進を図ることを目的として、今年も昨年に引き続き下記のように開催します。パネルの展示や作品即売などを行なう予定です。

- ・日時 平成10年2月20日(金)~22日(日)
午前10時~午後6時(22日は午後5時まで)
- ・場所 ジャスコ松任ショッピングセンター
1F ふれあい広場
松任市平松町102-1
- ・主催 石川県・石川県精神障害者家族会連合会
- ・共催 石川県精神障害者小規模作業所連絡協議会



編集後記

今年度2回の編集のお手伝いをさせて頂いて、原稿用紙ににじみ出ている家族の思いに共感させられました。原稿をお寄せ頂いたみなさま、ありがとうございました。